

The Lions News

DISTRICT 330-A LIONS CLUBS INTERNATIONAL

<http://www.lions330-a.org/>



2011 New Year



表紙画協力：口と足で描く芸術家協会

Contents

河合ガバナー、山浦国際理事メッセージ・第49回OSEAL(東洋・東南アジア・ライオンズ)フォーラム
シドL.スクラッグス国際会長公式訪問・メンバークローズアップ・クラブアクティビティ他

特集

難病対策支援特別委員会レポート・クラブ活動レポート(鶯谷LC)



謹んで新春のお慶びを申し上げます。



330-A地区の皆様におかれましては、佳き新年をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。

7月に330-A地区ガバナーを拝命いたしまして、早くも前半6ヶ月が過ぎ、新年とともに後期が始まるうとしております。日本に於いて、東京ライオンズクラブが1952年に誕生して60年近くなりますが、東京地区からは初の女性ガバナーという大役を仰せつかることとなり、責任感と緊張感に包まれた半年でした。

「行動と改革への挑戦～主役はあなた、ドラマチック330-A」をスローガンに、メンバーとしてお一人お一人が行動を通してその存在感と誇りを実感していただきたく、自分自身も行動する半年であったと思います。RCP、ZCPの皆様方、各地区委員会の方々も本当に活発に行動していただきましたことに改めて感謝申し上げます。

前半の柱でありました、奉仕月間も皆様のご協力を得て、

大変実りあるものとなり、ライオンズクラブの前向きな元気を肌で感じることができましたのは、地区ガバナーと致しまして、大きな収穫でした。

後半は「フォーラム&チャリティコンサート」～難病と闘う子供たちと家族を応援しよう～を、キャビネット主催で開催させていただきたく準備を進めております。

シドLスクラッグスⅢ国際会長も常に、メンバーの皆様が恵まれない方々の「希望の光」となってくださるよう訴えていられます。このイベントに寄せられる皆様の暖かなお心は大きな大きな希望の光となり、輝かしい奉仕の輪となります事を確信しております。皆様方の絶大なご支援を改めて心からお願い申し上げます。

新たに迎えました2011年が皆様方にとりまして、より一層ご繁栄の年となりますよう祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

ライオンズクラブ国際協会 330-A地区
2010-11年 ガバナー 河合 悦子



新年明けましておめでとうございます。



メンバーの皆様にあかれましては、輝かしき新春をお健やかに本年への数々の抱負を胸にお迎えに成られた事とお慶び申し上げます。

昨年は異常気象を始め、政財界、外交等、社会情勢は極めて不安定な一年でありましたが、今年こそ、十二支の卯年に相応しい穏やかな平和な年でありますよう願って居ります。

さて昨年7月の第93回シドニー国際大会に於いて、皆様方の温かいご支援ご協力を賜り2010-2012年のオセアルを担当する国際理事に就任させて頂いて以来、早半年が過ぎました。

私は東洋東南アジア17ヶ国の代表としてこの会則地区の発展は勿論であります、特に日本ライオンズの意志・主張を強く世界の舞台で反映できるよう国際協会とメンバー各位の「かけ橋」と成るべく努力すると共に、崇高なるライオニズムを次世代に継承する為に私のテーマ「Challenge to change 変化への挑戦」への追求と、21世紀を生きる我々の子孫がより良い環境の下、明るい健全な人生を送る為の活動の推進に微力ながら最善を尽くす覚悟であります。

時を同じく330-A地区では50余年の歴史に新たな一頁を刻む初の女性ガバナー、河合悦子ガバナーが誕生致しました。女性会員、若手会員増強を日本に期待するシドLスクラッグスⅢ国際会長も大変な好感をもって注目して居られます。

河合ガバナーはガバナーズ・スローガン「行動と改革への挑戦」のもとで、前半では各リジョン・ゾーン・クラブで有益な奉仕活動の成果を収められた他、会員増強ではL長井委員長のもと既に2クラブの誕生を見、後半では「フォーラム&チャリティコンサート」他、ライオンズ活動のPR等の企画をされて居られると聞いて居ります。日本の理事として国際協会を代表してその成功を心からご祈念申し上げます。

結びに、330-A地区内全クラブの例会のゴングが地区の平安の祈りと各クラブの発展・繁栄そしてメンバー各位のご多幸への響きとして伝えられる事を心よりお祈り申し上げます、年頭のご挨拶と致します。

ライオンズクラブ国際協会
2010-12年 国際理事 L山浦晟暉





330-A地区 委員会活動レポート 難病対策支援特別委員会

「小児ガンやその他の難病と戦う子供たち、そしてその家族を応援したい・・・」河合悦子ガバナーがライオンズクラブの奉仕活動に積極的に関わりながら温めてきた切なる思いである。

そして、その長年の思いは2009-10年度の副地区ガバナーに選任されて現実味を帯び、いよいよ「フォーラム&チャリティーコンサート」がカウントダウンの段階に入った。

来る3月11日は330-A地区初めての女性ガバナーならではの視点で、有意義なアクティビティとなるのは疑いようがないが、未踏の大型事業を成功に導くためのハードルは高い。

そのため、ライオンズ経験豊かなL村木秀之委員長（数寄屋橋LC所属）率いる難病対策支援特別委員会が設置され、委員会メンバーが一致団結して議論を重ね、関係各位との調整に奔走している。

今期河合キャビネットの成果が問われるメインアクティビティを牽引する委員会の舞台裏をレポートする。



ガバナーの熱き思いを実現するために・・・



（村木委員長） 我々の委員会は、今期河合ガバナーの熱き思い、すなわち「難病に苦しむ子供たちとその家族に手をさし述べたい」という気持ちを基に企画されている、「フォーラム&チャリティーコンサート」を成功させるべく、準備、運営を担当する重要な役割を担う立場だと考えている。

3月11日金曜日に池袋西口近くにある東京芸術劇場大ホールで開催されるイベントの企画自体はガバナーを中心に幹事団一同でほぼ固まっている。しかしながら、運営の部分では、まだまだ未確定の所も多く、その決定を待っている状況である。最終的な決定がなされないと当委員会としては活動出来ないが、そう簡単には決められない実情もあり、現時点で委員の皆さんには、準備や運営について予想される様々な問題をご検討頂きたい。

【注】陸上自衛隊第一音楽隊によるコンサート、アグネス・チャンさんの出演、総司会は山本文郎氏、収益金は（財）日本対がん協会、（財）難病医学研究財団、メイクアウィッシュオブジャパンの三団体等に寄贈する事等は決まっている。



（今田副委員長） 成功させるにはイベントへの動員が重要なポイント。告知パンフレットの制作やチケットの販売を早い段階で行うべきだ。

豊島西LC所属の私は東京芸術劇場の地元。ゾーン全体で協力しようという雰囲気なので非常に心強い。

（中村委員） リジョンチェアパーソン、ゾーンチェアパーソンにお願いすれば積極的に協力してくれると思う。仮に開催について異論が出たとしても、ガバナーから伝えて頂ければうまくいくと思う。ライオニズムを広く知らしめるという目的を持って実行するのだから、あれこれ言うよりも地区を挙げて成果を出すことに集中すべきだと思う。



（大竹副委員長） リジョンチェアパーソンの協力の下で、地区内各クラブに申込用紙などを送って、とにかく早く準備することが必要だ。また、チケットの申し込み用紙を、どこで配ってどのように回収するかななどを決めて、動員状況を随時把握しながら進めるべきだ。



（荒木副委員長） チケット料金の設定が妥当なのか？とか、他の出演者を検討する余地はないのか？といった意見も一部のメンバーから伝え聞いているが、すでに決定した部分をネガティブに捉えるのではなく、常に前向きな視点で議論を進めたい。

（吉岡副委員長） キャビネット運営に関わる我々は少数派であり、地区メンバーの多くは、3月11日に今期のメインアクティビティが実施される実感は薄い。従って、各クラブに動員のためをお願いをする際に、“チケットの押しつけ”という印象とならない準備が大切だと思う。



（後藤委員） イベント当日はお手伝い頂かなければならない人数は相当数になるものと思うが、私は大学関係に属しているため地元の立教大学さんに動員をお願いするつもりだ。私にとっては初めてのキャビネット活動だが、ガバナーの熱い思いを実現する委員会に所属して光栄に思っている。絶対にアクティビティを成功させたい。



（松本副委員長） 屋外会場の池袋西口公園を視察したが、不特定多数の人が利用する公共の場のため、当日の円滑な進行のためには予め調査の上、共有しておくべき点があるように感じた。何れにしてもやるべき仕事が多い。我々委員の役割分担を書面で示して頂きたい。



（鹿野委員） 会場では募金箱やのぼり等が用意され、帽子やサンバイザー、ジャンパーなどのライオンズグッズを販売する予定だと聞いているが、約2000名が集まるめったに無い機会なのだから、会場の構成や販売アイテムの検討をしっかりと行う必要がある。



（窪村委員） 地区の一員としてはもちろんのこと、同じ女性としても河合悦子ガバナーの思いを叶えたいと強く思っている。そして、委員会メンバーに選ばれたのだから、女性の視線を大切にしながらイベントのPR活動に協力し、チケットの販売を少しでも早く実施したい。



（山口委員） 我々の委員会はガバナーが設立した特別な委員会である点を常に念頭に置いて活動すべきだ。私は（財）日本対がん協会の垣添会長（国立がんセンター名誉総裁）を存じているが、素晴らしい講演をなさるので、パネリスト候補として検討したら如何だろうか？

（小野委員） 初めてキャビネットに出させて頂いた上に、間近でガバナーの思いを感じながら委員を務めることができるのは光栄に思うと同時に、大きな責任を感じている。有意義なアクティビティとするためのお手伝いを通じて、難病を持った子供たちとその親を支援したい。



（村木委員長） 皆さんからの関連なご意見がイベント成功の原動力に他ならない。今後も充実した委員会活動を展開し、3月11日に「良かったな」「難病の子供たちに役立てたな」…という参加者の感動と喜びの声が聞けるようなアクティビティにしよう。



シド・スクラッグスⅢ 国際会長公式訪問レポート

我々のグローバルリーダーを羽田空港で歓待

シド・スクラッグスⅢ（以下スクラッグス）国際会長夫妻が1月11日から14日までの334～337複合地区公式訪問を終えて、330～333複合地区公式訪問のために、不老国際理事、山浦国際理事夫妻と共に15日朝、羽田空港に到着した。

空港には330複合地区ガバナー協議会L桜井議長をはじめ、地区キャビネット役員に加えて、国際会長到着に合わせて例会振替を行った羽田LC並びに大森LC、蒲田LC、品川LC、大井LCのメンバーが、歓迎のパネルを掲げて盛大な出迎えを行った。

女性会員ワークショップ、ティーセレモニー

空港を出発したスクラッグス国際会長夫妻は、銀座ラフィナートにて開催中の「日本ライオンズ女性会員ワークショップ」を訪問し、ワークショップに参加した河合ガバナーを含め全国から選出された女性メンバー13名との和やかなランチタイムを過ごしながら、様々な意見交換を行った。

この国際協会主催によるワークショップは、より多くの女性や若い世代をライオンズに招き入れる道を探るべく、3日間にわたって本格的に開催された。尚、2010年5月にチェコ・プラハで開かれた第1回に続いて2回目となる今回は、スクラッグス国際会長の意向により日本での開催となったという経緯がある。

銀座ラフィナートを後にして向かったのはホテルニューオータニ。世界中を駆け巡るスクラッグス国際会長夫妻へのひとときの癒しとなることを願って催された茶会（ティーセレモニー）では、和装姿の桜井議長令夫人と菅原元地区ガバナーが日本の伝統的作法を通じて、スクラッグス国際会長夫妻への心からの歓迎の意を表すと共に、今後益々の健勝を祈念した。

プライベートな純日本空間・茶室で行われた心温まる交流は日本最頂でも知られるスクラッグス国際会長夫妻にとって、忘れ難い思い出になったことだろう。

歓迎夕食会でのサプライズ

公式訪問に先だって、15日夜に開かれた歓迎夕食会は不老、山浦両国際理事ほか330～333地区メンバー約40名がスクラッグス国際会長夫妻を囲むアットホームなムードで始まった。

夕食会冒頭に蒲田LCのL藏方会長から、チャリティーゴルフのドネーション5千ドルの目録が、LCIFへの寄付金としてスクラッグス国際会長に手渡された。

「訪問先で私への贈り物を頂くのは有り難いが、その分をLCIFに寄付して欲しい」スクラッグス国際会長から来日前に伝えられたメッセージを知るメンバーは、このセレモニーを見守りながら改めてスクラッグス国際会長の真摯な人柄を実感した。

また、スクラッグス国際会長夫妻の結婚50周年を祝して、宴たけなわの会場が突然消灯され、暗がりの中でキャンドルの灯りと共にケーキが運ばれてくるというサプライズがあった。

さらに、山浦国際理事令夫人から「夫婦としての初めて踊るワルツ」を表現した陶器人形が贈られると、思いがけない演出に驚きを隠せない夫妻であったが、ホスピタリティ溢れる心づくしに、深い感謝の意を表明し、満面の笑顔でダンスを披露した。



新宿ライオン像前でLCIF献金贈呈式

16日は新宿東口ライオン広場に於いて、山浦国際理事の所属クラブである新宿LCによるスクラッグス国際会長へのLCIF献金（20万円）贈呈式が行われた。

乗降客が1日平均347万人でギネスブックに世界一乗降客が多い駅として掲載されている新宿駅前の一等地に立つライオン像。

その黄金色に輝く姿を見て、スクラッグス国際会長は新宿LCの素晴らしい功績を讃え、ライオン像の口に自ら募金を行った。

公式訪問での国際会長メッセージ

京王プラザホテルに於いて午後12時より開催された公式訪問・歓迎午餐会には330～333複合地区メンバー約400名が参集し、スクラッグス国際会長のスピーチに耳を傾けた。

スクラッグス国際会長は1962年に海軍兵として横須賀に着任した当時、富士山の姿から日本の美しい伝統や文化を想起して感銘を受けた経験や、桜の花は友愛と笑顔の象徴であると語り、日本人特有の繊細な感性を理解するリーダーの訪問を印象づけた。

また、今回の来日で新たに覚えた日本語が「絆（キズナ）」であることに触れ、この場があるのは我々ライオンズが向き合わなければならない物事に対して、お互いに絆を深めるためであると語った。

そして、灯台は船の方向を指し示すだけでなく、その存在は安全を意味すると共に、灯台の光は明日が必ず良くなる「希望の約束」を表していると説明し、ライオンズメンバーは助けを求めている人と個人的な繋がりを持つことが大切であり、あなたの中にある愛の光で助けを求めている人を照らして欲しい、とスクラッグス国際会長自らが今期国際会長テーマ「A Beacon of Hope」を語りかけ、1925年以来奉仕活動に取り組み続け、今や世界最大の奉仕団体となったライオンズの責任とメンバーのあるべき姿を示した。

また、山浦国際理事の歓迎スピーチではスクラッグス国際会長の誰に対しても謙虚な姿勢と細やかな気配り、そして奉仕への情熱は正にライオンと呼ばれるに相応しい方であると賛辞を贈った。

自分の手で奉仕すること

公式訪問終了後、スクラッグス国際会長夫妻は薬物乱用防止キャンペーンが実施されている新宿駅東口アルタ前広場に向かった。

このアクティビティは奉仕活動の現場を訪問したいというスクラッグス国際会長の強い意向を受けて、公式訪問に合わせて急遽開催されたが、多数のメンバーがキャンペーンに参加する中、スクラッグス国際会長も「No Drugs!」のタスキを着用して広場を往来する人々に積極的にパンフレットを配布した。

18年前に実働メンバー12名のクラブに入会以来、100名以上をライオンズに招き入れ、自らのクラブを活性化し、地域社会に貢献してきたスクラッグス国際会長は「ライオンズが特別である理由は、会員が自分の手で奉仕すること」と語る。

今回のスクラッグス国際会長公式訪問を通じて、多くのメンバーが改めて実感したこと。それは、奉仕への揺るぎない決意さえあれば、誰もが世界最大の奉仕団体のリーダーとして世界に貢献できる機会が与えられるという、ライオンズクラブの開かれた組織の魅力と可能性ではないだろうか。



The 49th OSEAL FORUM

Kaohsiung, Taiwan 18-21 November 2010

OSEAL地域のライオンズメンバーが一同に集う「第49回東洋・東南アジア・ライオンズフォーラム」が、エキゾチックな香り漂う台湾第二の都市高雄にて、The Power of Service「社会奉仕の力」というテーマのもとに11月18日から21日の4日間盛大に開催された。

1年に一度開催されるフォーラムの目的は①友好親善の促進 ②地区運営とアクティビティの経験の交換 ③国際協会の目的の推進 ④国際大会参加の啓発 ⑤OSEAL地区のみならず全世界を対象とした合同アクティビティの実現可能性の討論 ⑥LCIFの推進 ⑦現国際会長の方針の推進 ⑧その他共通する事項の協議である。

今回のOSEALフォーラムでは約2万人が高雄に集い、日本からも3,242名(11月21日朝発表)が参加した。

国境を超えて活発な交流が展開され、正に世界最大の奉仕団体に所属する醍醐味を体感できる貴重な場である東洋・東南アジアフォーラムを、330-A地区国際理事委員会の協力を得てレポートする。

【コーカスミーティング】

18日夜に開かれたコーカスミーティングに於いて、日本からの国際理事候補者L 秦従道(MD332)、L 高田順一(MD334)が推薦され、OSEALの代表として承認された。

【第1回協議会議長と地区ガバナーの会議】

19日午前8時から第1回協議会議長と地区ガバナーの会議がLin実行委員長の開会ゴングでスタート。

シドL.スクラッグスⅢ国際会長、エバハルトJ.ヴィルフス前国際会長、ウィンクン.タム国際第1副会長、ウェインA.マデン国際第2副会長及び国際理事、元国際理事そして地区ガバナー全員の紹介がなされた。

会議では韓国のKim国際理事より、韓国が1複合増えて3複合になるのに伴い、ステアリング委員を2名から3名へ増員、日本にも現状の4名を8名にする案が提案されたが、日本から反対意見が出され、中国の暫定地区に対する扱いについての案件も含め、今後新たな委員会を構成して協議するという提案がタム国際第1副会長から出された。



【国際会長と地区ガバナーの会議】

この会議では国際会長が現在取り組んでいるアワード方法について説明があり、従来は元役員など役職者に与えていたものを一般の奉仕活動を行っているライオンメンバー75名に与える旨の発表があった。

【国際第1副会長と副地区ガバナーの懇談会】

次年度のリーダーが集う懇談会では、「地区レベル、個人レベルでの教育方法について」、「達成可能な目標の設定方法」、「リーダーとしての責任の持ちかたと決断の方法(紛争の解決方法)」、「各クラブの奉仕活動の取り組みの尊重」等についての情報共有を行った。

【開会式】

19日13時30分より高雄アリーナにて開会式が挙行政され、中華民国の民族郷土色豊かな雰囲気の中で、地区ガバナーを先頭に国際役員の入場行進が成され、万雷の拍手の中、シドL.スクラッグスⅢ国際会長夫妻が行進の最後に入場。満席の会場はライオニズムの熱気に包まれた。

第49回 東洋・東南アジア (OSEAL) フォーラムレポート

【ジャパンレセプション】

シドL.スクラッグスⅢ国際会長夫妻以下多数の来賓が出席したジャパンレセプションに於いて、日本からの国際理事候補者332複合地区L 秦従道、334複合地区L 高田順一のお披露目がなされた。

【330-A地区ガバナーを囲む会】

中信大飯店で開催された「河合悦子地区ガバナーを囲む会」は、200名を超えるメンバーが参加のもと、賑やかで和やかな会となった。

【第2回協議会議長と地区ガバナー会議】

20日午前8時30分からの会議では、2011年～13年国際理事候補者の承認、第50回OSEAL FORUM日程(2011年11月24日～26日フィリピン、マニラ首都圏バサイ市)の件、第51回OSEAL FORUM委員長(不老国際委員長)承認の件、第1回ステアリング委員会開催日程(2011年2月11日～13日)の件等が討議、承認された。

【国際第2副会長と第2副地区ガバナーの懇談会】

2012～13年度のキーマンによる懇親会では、「地区役員の人選(役割分担、技術、才能者の配置・将来期待出来る若手の採用)」、「ホームページにあるリーダーシップ育成の活用方法」等のテーマで意見交換を行った。

【LCIF複合地区及び地区コーディネーター会議】

LCIFとライオンズクエストの活動報告及び活用方法等の説明があった。また、LCIFコーディネーターにL 石井征二が就任した紹介がなされた。

【日本語セミナー】

不老国際理事がモデレーターを務めた日本語セミナーでは、プレゼンターとして2名の国際理事候補者L 秦従道、L 高田順一が講演した。

L 秦従道候補者からインターネットを利用する新世代のクラブ運営手法として説明のあった「サイバーネットライオンズクラブ」については、メンバー間の繋がりの希薄化という課題はあるが、遠隔地でも例会参加が可能であり、身体の不自由な方であっても活動を共に出来る点や、運営費用を抑えられる等のメリットがあることから。多くの聴衆が興味を抱いたようであった。

また、「ライオンズクラブの原点の見直し」というテーマで、ライオンズクラブは2つの組織的特徴を有するという視点が取り上げられた。

すなわち、家族、地域、社交、趣味などで一緒に活動を行い・年功序列、能力より人格を尊重する共同体組織という側面と、外的目標達成のためのグループであり、構成員の満足より目標達成を重視し、組織の拡大と強化を優先する機能体組織の2つの傾向について検証が行われた。

さらに、自クラブの歴史を話し合う機会の重要性や、メンバーの活動方針を共有できる場をクラブは積極的に提供すべきとの提言もなされた。

【フィリピンレセプション】

次年度フォーラム開催国主催のレセプションとして、マニラ首都圏バサイ市が宣言を行い、フィリピンのメンバーと来年の再開を誓い合った。

【国際会長晩餐会】

国際会長主催の晩餐会は、シドL.スクラッグスⅢ国際会長の大好きなジャズの生ライブの後に、YMCAの歌に合わせて各国のメンバーが壇上で思い思いの踊りを楽しむなど、盛大な宴となった。

また、地区全体で会員数の純増、もしくは2クラブ以上のエクステンションを達成した地区に対してシドL.スクラッグスⅢ国際会長より贈られるファーストライト賞の贈呈式が行われ、全日本35地区中、32地区のガバナーが受賞し、河合悦子ガバナーも国際会長より表彰を受けた。

【第3回協議会議長と地区ガバナーの会議】

前日開かれた決議委員会の決議案の採択がなされ、第49回OSEAL FORUMの決議内容が確認された。また、第50回フォーラム開催地がフィリピン、第51回フォーラムが福岡市で開催される事、2011～2012年度国際第2副会長候補者としてBarry Palmer元国際理事(オーストラリア)が推薦された。

【閉会式】

本部ホテル41階での閉会式では、マイケル・ソー・フォーラム委員長から「さよならの代わりに「社会奉仕の力」を誓い合って再会の約束としましょう」と締めくくり、盛会のうちにフォーラム全日程は終了した。



地域社会に貢献して四十年 東京鷺谷ライオンズクラブ 奉仕活動レポート

40周年記念アクティビティ

昨年チャーターナイト40周年を迎えた鷺谷クラブでは、記念事業として平成22年9月23日(祝日)上野恩賜公園野外ステージにて東京都台東区、台東区教育委員会、財団法人麻薬・覚せい剤乱用防止センターの後援を得て、「薬物乱用防止啓発作文コンクール、台東区立中学校生徒クラブ活動発表会」が行われた。

発表会当日の、9月23日(祝日)は連日の厳しい残暑とは異なり、低気圧の通過で豪雨と強風のため開催が危ぶまれるほどであったが、発表会が始まるころには何とか収まり、曇り空のあいにくの天気ながらも、発表する中学生やその家族、台東区、台東区教育委員会関係者、ライオンズクラブ関係者や鷺谷 LCクラブメンバーの家族ら述べ1000名を超える来場者が訪れた。また、発表会の前には330-A地区6リジョン2ゾーン各クラブの賛同を得た合同アクティビティである献血活動が実施され、地域社会に貢献するライオンズクラブの姿を印象付けるすばらしい記念事業となった。



区内各中学校の吹奏楽部の発表では、東京都中学校吹奏楽コンクールB部門「金賞」受賞校であり、54名の部員を擁する浅草中学校吹奏楽部ほか、東京都中学校吹奏楽コンクールB部門「銅賞」受賞校の上野中学校吹奏楽部、東京都中学校吹奏楽コンクールB部門「銀賞」受賞校の忍岡中学校吹奏楽部らの演奏が発表された後、東京都中学校吹奏楽コンクールB部門「金賞」受賞校の台東区立柏葉中学校の吹奏楽部の演奏と手話部の演技も発表された。

こうした発表会は生徒らに日ごろの練習成果を披露する晴れの場を提供すると共に、大舞台での発表というひとつの目標を与え、生徒にエールを贈る有意義な機会である。

さまざまな社会奉仕で地域に貢献

鷺谷LCでは草創期のころ、地元下谷警察署および下谷消防署へ広報車や無線電話、非常炊飯器の贈呈、施設への盲人用点字本、小学校への教材の贈呈などが行われて、近年では緑化美化運動、入谷交差点記念時計塔設置、特別養護老人ホーム浅草への奉仕、クリーンロード作戦、朝の挨拶運動などで地域に貢献し、さらにはフイリピン・ルソン島サンエステバン小学校支援活動を実施するなど、



作文や美術品(ポスター)コンクールで薬物乱用防止を啓発

上野恩賜公園で開催された記念事業では“薬物乱用防止啓発作文コンクール”の発表も行われた。

駒形中学校一年生、柏葉中学校二年・三年生、浅草中学校二年生、忍岡小学校三年生ら全部で308名もの応募があり、5名の優秀賞、1名の最優秀賞、佳作、入賞など50名が選ばれ、優秀賞、最優秀賞の作文が本人自ら朗読して発表された。

さらに、会場では6つの中学校(御徒町、忍岡、浅草、桜橋、柏葉、上野)の生徒達が描いた「薬物乱用防止」に関連する美術作品(ポスター)101点が展示された。



民間人による初の「薬物乱用防止教室」を公立学校で実施！

ライオンズクラブメンバーであれば、所属クラブで実施していかなくとも1度は聞いたことがあるであろう「薬物乱用防止教室」。

メンバー自らが研修を受け、薬物乱用防止教育認定講師の資格を取得した後に、地域の学校に赴き、青少年を薬物乱用から守り、健全な育成を見守るために開催するアクティビティである。

この「薬物乱用防止教室」は鷺谷LCが全国に先駆けて1994年自発的に取り組んだ活動。そして第一号の薬物乱用防止認定講師であり発案者のL寺田義和に創設当時の経緯を聞いた。



「クラブの奉仕活動で、駅頭に出て道行く人に「薬物乱用防止」を訴えて、パンフレット、ボールペン等を配布し、心地よい疲労と共に、充実したアクティビティを成し遂げた満足感に浸った。しかし、回を重ねる毎に当初の達成感が次第に薄まり、同時に疑問と共にむなしさが湧いてきた。なぜなら、配布物を積極的に受け取ってくれるのは、おじさんやおばさんたち。青少年たちは無視するか、手を払いのけ我々の前を避けて行く・・・。「ダメ。ゼツタイ」を一番知って欲しいのは、君たち青少年だと言うのにどうして受け取らないのだ？必死に考えた末の結論は「そうだ！青少年がたくさんいる所へ行けばいい！そこは学校だ！という結論に達したのです」

下谷中学校からはじまり、認定講師の育成へ

L寺田の思いはクラブ承認を得て、(財)麻薬・覚せい剤乱用防止センターの阿部俊三部長の協力のもとで下谷保健所衛生課長の佐野ウラ様を講師に迎え、交流のあった台東区立下谷中学校で1994年3月3日、初めての「薬物乱用防止教室」が実施された。

当日の様様を収録したビデオ及び写真撮影が、今日の「薬物乱用防止教育認定講師」制度創設に向けての最初の一步となった。

最初は手探りだったが、やがて台東区内9校、中野区2校の中学校で開催される事により、講師の手配が困難となってきた。

一方、薬物乱用者増大による深刻な悪化と、青少年も含む低年齢化の拡大という由々しき社会問題化により、政府が目指した施策に沿った効果的な手段として、特に1996年以降「薬物乱用防止教室」開催が急速に増えたが、中には「青少年の興味を引き起こす危険性のある」拙速な指導内容も見受けられた。



下谷中学校での「薬物乱用防止教室」開催風景

山浦晟暉国際理事がエンジンバラ国際理事会に於いて「薬物乱用防止委員会」設置を提案

2010年10月1日より5日まで、英国スコットランド・エンジンバラで開催された「国際理事会」の奉仕事業委員会にて、山浦晟暉国際理事は、薬物乱用防止委員会設置に関する提案を行った。これを受けて委員会の討議議案として討議された後、JERRY SMITH 委員長によって国際理事会で次の議題として討議する様、提案された。(※国際理事委員会提供資料)

「薬物乱用防止委員会」設置についての提案書(抜粋)

■ 目的

21世紀、私達は子孫の為、健全な社会・健全な地球を形成する為に努力する事が使命であり、与えられた責任と義務である。この目的を達成させる為には「環境保全」と「青少年健全育成」が2大事業であるとする。

青少年健全育成で現在特に求められている事は、世界的に深刻な社会問題となっている、青少年の薬物乱用問題である。この薬物乱用問題を根絶するには、薬物の恐ろしさの知識を青少年に理解させる為に、薬物乱用防止運動を地球規模で行うべきと考える。

■ アクションプラン

薬物乱用防止運動を全世界に実施して行く為に、ライオンズクラブ国際協会に薬物乱用防止委員会を設置して頂き、CSF IIや20K、GMT等のように、国際プログラムとして世界各国のライオンズに薬物乱用防止委員会を設立し、各地区に薬物乱用の恐ろしさを熟知した地区コーディネーターを配置したいと考える。

薬物乱用防止 (Drug Abuse Prevention) DAP コーディネーター(仮称)はDVDや教本等を使用し、ライオンズメンバーの薬物乱用防止インストラクターとしての養成に努める。

地区アクティビティから世界へ

薬物乱用防止活動は各警察署の協力を得て、鷺谷LCが自費出版した薬物乱用防止指導者用読本の反響も多数頂きながら330-A地区から全日本に普及する兆しが見えてきた。

そこで、正しい薬物乱用防止の知識を身につけた地域のリーダーであるライオンズメンバーが増える事は、マクロで捉えれば国益に貢献し、社会・世界にとっても良い結果をもたらす。家族に、社員に、地域に折に触れ「薬物乱用防止」を広めることが良い結果を生み、学校を始めとして薬物乱用をしない人生の価値を説けば、さらに「素晴らしい未来を今、作る」事になる！

このような思いでは1997年9月17日「薬物乱用防止教育認定講師制度」の呼びかけを行い、97人のライオンズメンバーが晴れて教育認定講師1期生として誕生した。

鷺谷の言問橋に建つ「ダメ。ゼツタイ。」君モニュメントには、雨の日も風の日も24時間休み無く、往来する全ての人々に薬物乱用を訴え続けて行く鷺谷LCの決意が込められている。

その真摯な情熱がいまや世界のライオンズに広がろうとしている。



ライオンズメンバーに、薬物乱用の恐ろしさの知識を充分に理解させる為の講習会を開き、薬物乱用防止のインストラクターとなったメンバーは高校・中学等を訪問し、DVDや教本を見せ薬物乱用の恐ろしさを訴え、健全な成人に成長させる為の努力をする。

青少年への教育システムの確立は非常に大切であり、この活動をごく一部の国のみで行うのではなく、全世界のライオンズクラブメンバー全体として実施して行く事が大切である。

ライオンズクラブでの他の活動同様、薬物乱用防止活動を各国のアクティビティとして実施していけば、より多くの青少年に薬物乱用の恐ろしさを伝えることができ、次世代を担う青少年が明るい幸せな人生を送る上で、健全な青少年を育成することにつながり明るい社会を期待できる。

薬物乱用防止については国によって異なるが、多くの国では主に政府機関や警察等でも啓発活動を行っている。

また、国連 (UNODC) に於いても世界規模での薬物乱用防止活動が行われている。ライオンズクラブが自ら培った知識とその教育システムを元に、各国が世界規模で導入していけば、薬物乱用防止活動はより一層相乗効果を得ることが可能である。

●入会のきっかけ・・・

当時の東京クラブ会長だったL 豊田治助（ライオン誌日本語版の1958年7月創刊号を担当したメンバー。創刊号の発行部数は4,500部だった）に誘われて1975年6月に入会しました。

味の素会長とL 豊田が学友だったことから、その時に常務だった私に突然声が掛かったようですが、ライオンズクラブについては全く知らないまま「わかりました」と返事をしました（笑）



●すごいメンバーがいる・・・

いろいろな団体がある中でも、ライオンズクラブの年会費はずいぶん高いと思いながら入会しました。

ところが、学校生活や会社での活動を通じて、それまでの私の交流範囲ではとても出会うことのできないような異業種の人達が在籍していることを例会に出席して初めて知りました。

しかも、その人達はそれぞれの専門分野でリーダーシップを発揮している立派な経済人ばかり。誰もが名前を聞いたことがあったようなメンバーとも知り合うことができたのは驚きでしたね。

●奉仕活動への気づき・・・

東京クラブでは「徹子の部屋」などのテレビ出演でも有名なソプラノ歌手の島田祐子さんが毎月2回の例会やクリスマス家族例会に欠かさず出席されてライオンズクラブの歌をうたって下さいました。

とても忙しい人ばかりにも関わらず、真面目に理事会、例会に出席して奉仕活動を実践するメンバーには感心しました。

正直なところ、入会するまではそれほど奉仕について関心の無かった私でしたが、ライオンズクラブでの出会いやアクティビティを通じた体験から、改めて奉仕の大切さを実感するようになりました。

普段会社には認識できない世界がライオンズクラブにはあると思います。

●クラブ会長の経験・・・

私が会長を拝命したのは8年前のことですが、東京クラブが結成50周年記念式典を開催する年度でした。

何しろ日本で初めて結成された東京クラブが50周年を迎えると言うことは、日本のライオンズクラブの歴史が半世紀を迎えることを意味します。会長として恥ずかしくない内容にしなければならないという緊張感は強くありました。

とりわけ、常陸宮両殿下、フランク・ムーアⅢ国際会長（当時）やスポンサークラブであるマニラLC、シスタークラブの台北中央LC、ソウルLCなど関係各位をお招きするための日程調整には苦労がりましたが、L池崎をはじめとしたメンバーのご尽力のお蔭で皆様にご出席頂きまして、盛大に執り行う事が出来ました。

●会費について・・・

50周年記念アクティビティとして、中央区と千代田区に新型の老人介護車を寄贈しました。また、留学生の受け入れ支援や地雷除去のための支援金を贈呈させて頂いたのですが、単に高いと思われるがちなライオンズクラブの会費は、飲食ばかりに消費されるのではなく、数々の有意義な奉仕活動の資金として使われているのも事実です。

●ビジネスとのバランス・・・

入会時は常務でしたが、その後社長、会長と経営の第一線を勤めながらも、例会には必ず出席するように心掛けていましたし、日程が合わない場合は他クラブにメイクアップして100%出席を維持していました。因みに、経団連の副会長の時にはあまりに忙しかったため、経団連の会合で出席できない場合は特別に出席扱いにしてもらいました。

いくら仕事が忙しくても、ライオンズクラブには出席する価値があると思えばこそ、出席には拘りました。

●人間の究極の幸せ・・・

機会があればお伝えしている「人間の究極の4つの幸せ」という考え方があります。1つ目は、人に愛されること。2つ目は、人に褒められること。3つ目は、人の役に立つこと。4つ目は、人に必要とされること。

私は東京クラブでは最年長の85歳になった現在も、自クラブはもちろん、他クラブのメンバーとも親しい付き合いが続いています。

これからも素晴らしい仲間と共に、ライオンズクラブでの奉仕活動を通じて、一步一步究極の幸せに近づいて行ければ幸いと思っています。

東京蒼天LCの認証状伝達式が11月30日東京プリンスホテルに於いて行われ、会場には来賓・メンバー関係者200名が出席。例会振替クラブも6クラブを数えた。

国際協会よりチャーターメンバーが記載された認証状がキャビネット近藤幹事の手により厳かに入場し、蒼天LCのチャーターメンバーが整列する中、河合ガバナーより代表して石原雄一郎初代会長に伝達され330-A地区219番目のクラブが誕生した。

石原会長が「行動力を生かした奉仕活動をしていきたい」と抱負を語ると、会場は祝福の拍手に包まれた。



東京新世紀LCの認証状伝達式は11月10日ヒルトンホテル東京に於いてスポンサークラブである東京成城LC結成40周年記念式典と同時に開催された。

世田谷区長はじめ多数の一般来賓・メンバー400名が見守る中で、新クラブの船出に相応しい活気ある伝達式となった。

結成経過報告につぎ認証状入場・認証状伝達、そしてチャーターメンバー全員が整列し右手を挙げて「ライオンズの誓い」を宣誓した。

河合ガバナーは「今後の発展を心から期待する」と挨拶。中原剛初代会長の謝辞にて認証状伝達式を終了した。



Activities History 品川区少年マラソン大会の変遷

24年前の話である。大井LC理事会に於いて地域社会の青少年育成アクティビティの一環として、当時、殆どのクラブが地域の少年野球連盟に対して、金銭的アクティビティを行っていることに鑑み、一歩進んで青少年マラソン大会の共同開催が提唱された。

失敗を恐れて反対意見も多かったが、推進メンバーは品川区少年野球連盟と折衝を重ねて開催に自信を持っていた。

そして理事会の承認を得て、品川少年野球連盟に実行の運営を担当してもらうことになり、第一回「大井地区青少年マラソン大会」と銘打って、野球の試合のない次期、即ち、冬休みを利用して汗を流すことを、大井LCも、大井地区少年野球連盟も決定した。

当時は現在のように少子化問題が無かったこともあり、大会は大井鯨洲運動公園でセレモニーを行い、防犯協会を始め、走路周辺の地元商店や住民の協力を受けて、9回開催まで順調に開催してきた。

然し、次第に少子化の波はひたひたと寄せてきた。趣味趣向の多様化もあって、野球もマラソンも、そしてライオンズクラブの直接のアクティビティであるレオクラブも会員減少の一途を辿っているのが現状となった。

大井地区少年マラソン大会も、将来は品川区内の名物催事にしたと思って始めたことでもあるし、何とか拡大したいと考えていた。

品川区内には大井地区以外に荏原地区と品川地区に連盟があり、都合6連盟が存在している。少なくとも1,000人以上の動員が開催のための最大目標である。スローではあるが構想は歩き始めた。



一方、ライオンズクラブでのPRも必要で、品川LCが側近のブラザークラブとして存在し、大井LCがスポンサーした荏原LCもある。更にゾーンこそ違うが五反田LCも品川区内である。

然し急激に拡大するのは如何と考え、まずは身近な、荏原LCにと、当時のZC、L福沢耕一に相談した。彼は私の考えに賛同し、荏原LCの執行部の賛同を取り付けてくれた。続いて品川LCからも幸い理解を頂いて、主催者の一員になってくれることになった。

かくして、「第10回大井地区青少年マラソン大会」は会場を大井埠頭海浜中央公園内の一周400メートルの本格トラックを持ち、観覧スタンドの付いた会場へ移動して、一大メインイベントのアクティビティとして「第一回品川区少年マラソン大会」の開催となった。

更に翌年1996年6月、五反田LCも加わり品川区内の4クラブが共催となり、地域社会のために強大な力となった。また、L杉内省吉（大井LC）の事業のお得意様である東京馬主会様を訪問したところ、地域の協力者として快諾を得られたのも励みになった。以来開催ごとに御協力を頂いており、誠に有難い事である。

この青少年育成アクティビティは大井LC単独の開催以来、通算で24回の実績を数えるまで成長した。

大井LC 元会長 L小倉 一太郎

(写真) 第16回品川区少年マラソン大会 2010年12月12日(日) 品川LC・五反田LC・大井LC・荏原LC主催 品川区後援 参加人員1,350名

11月7日 里山整備作業

三鷹LC



東京三鷹ライオンズクラブでは、失われつつある東京の里山を守るアクティビティを長年続けています。「天神山」として市民に親しまれている緑に囲まれた里山を、下草刈りやむき出しになっている部分の土留め、さらに、四季折々に咲く花木を植え市民の憩いの場に育て続けています。

今年も11月7日(日)に地域の子供とその親、メンバーの70人あまりで整備作業を行いました。

またこの日は、環境保全のL吉田委員長、同L小川副委員長、L増田副幹事も駆けつけ一緒にクワをふるっていました。

11月27日 犯罪被害者支援募金

光が丘LC



犯罪被害者支援募金 11月27日(土)当日は、河合ガバナー、阿久津第2副地区ガバナーも応援に駆けつけ、光が丘LC L浅沼が会長を勤める少年野球北東リーグの子供達41名と共に総勢80名にて、JR池袋東口・西口の二ヶ所にて募金活動を行いました。

犯罪にあわれた方々は、その被害からの回復に大変な苦勞を必要とし、自身の身体ばかりか家族までも経済的な困窮や言われ無き差別とも向き合わざるを得ない状況です。

11月25日～12月1日までの犯罪被害者支援週間にあわせ全国一斉募金が行われ、

その一助にと光が丘LCでも募金活動を行っています。

当日は皆様の善意により約14万円の支援金が集まり、犯罪被害者支援基金の一部として活用されます。

尚、この募金活動が11月28日付の東京新聞山の手版、12月14日付の日本経済新聞に掲載されました。取材、資料協力していただいた光が丘LCの幹事L大久保に熱く熱く語っていただきました。

11月28日 第6回城西地区少年剣道大会

剣道LC



青少年の健全育成を剣道を通じて指導するため中野区・渋谷区・杉並区・新宿区・世田谷区の子供たちの大会を開催しました。

交剣知愛を大いに深める機会となり、試合において相手を敬い武道精神をもち正々堂々と戦い、次の大会までの精進する目標を知ることにもなり、子供たちに良い勉強の場となったことでしょう。

ライオンズクラブが単独で主催・運営・審判をする大会はめずらしく、違った風を起こしそうです。

この大会には、キャビネット、しいの木ライオンズクラブ、赤坂ライオンズクラブに多大なご協力を得て成功することが出来ました。

12月8日 米作り青空教室 第3弾 もちつき大会

秋川LC



「米作り青空教室」の春の田植え・秋の稲刈りに続く第3弾のもちつき大会が五日市小学校にて行われました。参加する5年生96名は、当クラブ寄贈のお揃いのTシャツを着て楽しそうに集まってきました。

セレモニーの後、児童のもちつきが始まり、笑顔・掛け声を出して順番を待つ間も楽しそうでした。もちつきが初体験で不安だった子も、メンバー・先生の指導で何とかさまになってきました。児童の保護者・おじいちゃん・おばあちゃんも(約30名)加わり、ついたもちで大福やきなこもち・おろしもちを作りました。5年生はあんこ入りもち作りに夢中。その後は皆で美味しくいただきました。

自分たちで植え・刈り・食する子供たちはすばらしい体験をしてきたと思います。米作りを通じて、少しでも多くの児童が環境問題(秋川・平井川などの水について)を考えるきっかけになればと願っています。

12月15日 国際交流家族例会

調布LC



国際交流家族例会は当クラブで20年間継続されてきましたメインアクティビティです。

本年も12月15日(水)にクレストンホテルで開催されました。調布市にある電気通信大学の留学生18カ国51名と職員の方を招待いたしました。

梶谷学長、永友市長に続いてタイ国留学生キットスワンさんの流暢な日本語の挨拶があり、その後おいしい料理を頂きながらメンバーや家族とのにぎやかな交流を楽しみました。

例会のクライマックスは豪華なラッキーカードの抽選で大いに盛り上がり、また次回の開催を心待ちにする声があちこちから聞こえてきました。

12月16日 こぐま園のクリスマス

番町LC



番町ライオンズクラブは今年も、心臓病の子ども達の私設保育園「こぐま園」へクリスマス訪問を行いました。

はじめにL吉岡の尺八によるクリスマスソング演奏につづき、L小玉会長が扮したサンタさんと、L藤ヶ崎のトナカイさんの出現にビックリの子供たち。サンタさんからのプレゼントに子供たちは大喜びしていました。その後、子供達、母親達、先生達との楽しい昼食会と交流をしました。

支援をはじめて23年目の冬も無事に乗り越え、希望の新年を親子共々迎えられんことを心よりお祈りいたしました。

12月17日 板橋区立金沢小学校での薬物乱用防止教室

板橋LC



板橋LCでは区立金沢小学校にて6年生(3クラス124名)を対象に薬物乱用防止教室を実施した。

金沢小学校では今年で3回目の開催であるが、外部講師を依頼した1回目を除き2回目以降は板橋LCのL吉田が講師を務めている。

今期ライオンテーマのL吉田はクラブの薬物乱用防止委員会委員長も兼任し、薬物乱用防止セミナーへの出席や啓蒙パンフレット、関連書籍からの情報を元に、一度でも手を染めたら後戻りできないという薬物の恐怖を非常にわかりやすく子供達に伝えている。

「講座を聞く子供達の眼差しは真剣そのものだし、素直な気持ちでこちらからの情報を受け止めてくれる。だから講師としても手を抜けない。少しでも子供達の明日を守ることができたらという思いで講座に臨んでいるが、むしろ子供達の純粋な表情から教わることも多いし、やって良かったと心から思えるのが薬物乱用防止教室の醍醐味」とL吉田は語る。

区立前野小学校での薬物乱用防止教室も一昨年からスタートしたが、両校共に一度実施すると、学校側から次の開催要請が必ず来るのは時代が求めているアクティビティだからだろう。

1月2日 浅草雷門前での献血活動

浅草LC



新年のお正月早々、浅草雷門前の路上に於いて浅草LCと6R1Z所属の蔵前、飛翔、秋葉原、御茶ノ水、鳥越の各クラブは共同で献血の呼びかけを行った。

当日は車道が遊歩道として開放されており、浅草寺への初詣の人たちや観光客で多くの人出となっており2日間で264名の申込があり、202の人たちから献血のご協力を頂いた。

浅草LCでは30年以上この活動が続けており、同クラブが昭和58年に発行したクラブ会報誌「浅草」には雷門交差点にて356本もの採血が行われたことが報告されている。

献血が長きにわたり頻繁に各所で行われるのにはある事情がある。それは、献血された血液が実際に輸血を受ける人たちに利用されるには、採血後に輸血に適する血液かどうかの検査に一日を要し、その後3日間しか輸血できる期間が無いからである。

採血した血液は常温または冷蔵でしか保存できず、冷凍保存した血液は輸血に利用できない。このように輸血を必要とする患者がいる限り、献血活動が求められる現状がある。

我々の献血活動が多くの人たちの生命に愛の手を差し伸べているといっても過言ではない。



ライオンズクラブ国際協会330-A地区主催

フォーラム&チャリティコンサート

～難病と闘う子供達と家族を応援しよう～

2011年3月11日(金曜日)池袋西口東京芸術劇場にて開催!

開場17時 開演18時～20時半 入場チケット 5000円



東京芸術劇場



イベント内容

オープニング	主催者挨拶など
プレゼンテーション	VTR等にて支援対象者への理解を深める
パネルディスカッション	司会者/山本文郎 アンカーウーマン/ガバナー河合悦子 パネリスト/アグネス・チャン他、
チャリティコンサート	アグネス・チャンライブ 陸上自衛隊第一音楽隊ライブ演奏
フィナーレ	寄贈式など

同時開催イベント(池袋西口公園/噴水広場)

コンサート当日は池袋西口公園/噴水広場に於いて、献血・骨髄移植の呼びかけ・薬物乱用防止街頭キャンペーン・献腎などのドナー登録の呼びかけ・社会福祉募金活動ほか、各委員会とのリレーションシップにより、ライオンズクラブのアクティビティを実施予定です。



名 称	ライオンズクラブ国際協会330-A地区主催「フォーラム&チャリティコンサート」～難病と闘う子供達と家族を応援しよう～		
開 催 日 程	2011年3月11日(金曜日) 開場17時 開演18時～20時半		
主 催	ライオンズクラブ国際協会330-A地区		
後 援	豊島区・東京都・東京都教育委員会・豊島区社会福祉協議会・東京都社会福祉協議会		
開 催 場 所	東京芸術劇場 大ホール 東京都豊島区西池袋1丁目8番1号		
寄 贈 先	(財)日本対がん協会 (財)難病医学研究財団 (財)メイクアウィッシュオブジャパン他		
入場チケット	一律 5,000円(全席指定/入場収益はすべて寄付金といたします) ※指定席は当日受付にて交換を行わせていただきます		
その他開催	西口公園/噴水広場にて様々なライオンズクラブの奉仕活動を行う予定です		



お問い合わせ・お申し込みは<ライオンズクラブ国際協会330-A地区 キャビネット事務局>

TEL:03-5330-3330 FAX:03-5330-3370 E-mail: cab@lions330-a.org



表紙作者 M.カミンスカ(ポーランド/口で描く) 作品名 「平和な野うさぎ」

1974年7月生まれ。生後4週間目に、短い時間ではあったが、臨死をひきおこした厳しい肺炎に罹った。それにより重い脳障がいが残り、両腕両足を使うことができない。自分の意思通りに動くことができず、痙攣性マヒにも苦しめられている。現在は美術の公立学校に通っている。写生に徹した学習から始め、省略を学ぶことで、訴える力の強い表現力を自分のものにした。水彩画とグワッシュ(濃厚で不透明な水彩絵の具) 画を良く描くが、最近では木綿や絹の上にも描き始めた。すでに個展を開催した。

ライオンズクラブ国際協会
330-A地区

地区ニュース 4号
(2011 New Year)

発行日 2011年1月25日

発行 PR・情報委員会

PR・情報委員会

委員長 山本 康弘

副委員長 柴田 誠

鈴木 郁朗

委員 芳澤 幸男

小森 康一

新渡戸智純

吉澤 隆志

奥山 貞夫

木下 榮弘

山口 聖之

谷澤 進一

西部 重男

笠原伸太郎

ライオンズクラブ国際協会

330-A地区 キャビネット事務局

〒160-0023

東京都新宿区西新宿7-10-17

新宿ダイカンプラザ B館 2F

TEL 03-5330-3330 FAX 03-5330-3370

E-mail cab@lions330-a.org